

アサリ中間育成試験

福島県水産種苗研究所
平成16、17年事業報告書

1 部門名 水産業一種苗研究(開発)－中間育成・アサリ

分類コード 19-06-21540000

2 担当者 松本育夫・鈴木宏

3 要旨

平成16年度に陸上水槽で生産した5mm稚貝(平均殻長 6.1 ± 1.8 mm)と3mm稚貝(平均殻長 3.4 ± 0.6 mm)を用い、それぞれ目合4mmと2mmの網籠(底面が55cm×55cm、以下「籠」)に収容し、海中垂下で飼育した場合の効率的な収容密度を検討した。

1籠あたりの収容数を5mm稚貝は4千、6千、8千、10千個、3mm稚貝は6千、8千、10千、12千個とし、それぞれ2籠ずつを1本のロープに上下に連結して松川浦内の2箇所に平成16年12月16日に垂下した。

平成17年12月7日に取上げた結果、生貝の総重量は約36kg、1個あたりの平均重量が約0.5gで、取上げ個数は約75千個であった。収容個数に対して全体の生残率は30%弱であった。

1籠毎の生残率は60.0～13.6%で、場所別やサイズ別では大差がなかったが、上下別では上の方が下よりも生残率が高かった。収容密度別では、5mm稚貝では4千個収容が最も生残率が高く、3mm稚貝では8千個収容が最も高かった。概ね密度が高いほど生残率が低い傾向が見られた。

成長を平均殻長で見ると、収容時5mm稚貝は取上げ時14.0mm、3mm稚貝は11.3mmと収容時の差のままであり、成長量はほぼ同様であった。場所別や上下別には成長差はみられなかった。収容密度別では、5mm稚貝では4千個収容が最も大きく、3mm稚貝では12千個収容が最も大きかった。概ね密度が高いほど殻長が小さい傾向が見られた。

収容する場所や籠数、それにかかる労力などを無視した場合、最も生産効率のよい収容密度は、5mm稚貝では4千個収容、3mm稚貝では8千個収容と試算された。

4 その他の資料など

福島県水産種苗研究所研究報告第4号